

令和 6 年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和 7 年 3 月 3 日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
「活躍の場」思考力・表現力の育成をめざした授業づくりと感動的な行事の創造	思考力・表現力の育成	・授業において、ペア学習を積極的に導入し、思考する、表現する、話し合う等のアウトプット活動を充実させる。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の授業で、個人追究の時間を確保し、その考えをペアやグループ、全体にアウトプットする場面を積極的に設けた。 行事では、生徒スタッフが中心となり、行事の企画・運営を行い、自己有用感を育むことにつながった。 「学校は自分たちの意見等を取り入れてくれている」と感じている生徒が多かった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 小学校では、タブレットを使って宿題を行っている。中学校でももっと活用できると思う。 3年生を送る会に参加したが、とてもよかった。先生たちも大変だが、今後も、生徒たちが主体的に活躍できる場を設けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器やタブレットを有効活用し、魅力ある授業づくりを実践していく。 個に応じた支援を充実させるとともに、協働的な学習にも力を入れる。 生徒たちがより自己有用感を感じられるように教師が適切な支援を行う。 学習の定着を図る手段として、家庭学習において適切な量の課題を設定する。
	感動的な行事の創造	・生徒の願いを大切に、生徒と教職員が力をあわせ、心が動く感動的な行事を創りあげる。	A					
「認められる場」自他のよさ・成長を実感できる指導や評価の実施	生徒のよさ・成長を認める意識の向上	・全教職員で全生徒のよさ・成長を見逃さず、認める指導を徹底する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> プラス言葉を積極的にかけることを意識し、生徒の自己有用感や自己肯定感の育成に努めた。 「自分（子ども）のよさを見つけ、認めてくれている。」と回答した生徒・保護者が昨年度と比べ、ともに増えている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感を高め、自分の可能性を信じていくことができるように、生徒たちのよさをどんどん伝えてほしい。 行事後にお互いのよさを伝え合う活動をしているのはとてもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級や学年、学校行事などにおいて、生徒の活躍できる場を設定し、よさを認める声かけを積極的に行っていく。 生徒たちが主体的に活動できる環境を整え、それらの活動を通して、自他のよさを発見し、自分の居場所づくりにつなげていく。
	相互評価・自己評価の実施	・授業、短学活、行事等に、自分自身や友達のよさを見つける活動を積極的に位置づける。	B					
「安心できる場」人間関係づくり活動の充実（スリンプルプログラム）の実施	人間関係づくり活動の充実	・週1回「スリンプルプログラム」を導入するなど、人間関係づくり活動に積極的に取り組む。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度より取り入れた「くろちゃんタイム」（スリンプルプログラム）では、人に伝えること、人の話を聞くことなどを通し、良好な人間関係を築くことができた。 多くの生徒・保護者が「学校は安心して学校で生活できるように取り組んでいる。」と回答している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 安心して学校に通える環境整備がとても大切。そのために、人間関係づくりを大切にしてほしい。 校内適応教室で、担当の先生が、教室の生徒たちと同じように実験をやってくれた。とてもありがたかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが安心して生活できる環境を整え、「スリンプルプログラム」を通して、良好な人間関係づくりを推進していく。 生活サポートやSCとの連携を図り、学校体制として生徒それぞれの様子を把握し、個々に合った居場所づくりを進めていく。
	不登校生徒への対応	・不登校生徒への居場所づくりを進めるとともに、新たな一人を出さなため学習環境づくりをすすめる。	B					
小中一貫教育の充実による保護者・地域・小学校との連携推進	保護者・地域・小学校との連携推進	・小中一貫教育を推進し、3小学校との連携を密にした実践を行い、児童生徒の交流活動を充実させる。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 4校異学年交流会や合唱コンクール、ホープ相談など、小中学生が交流する活動を行った。 HPやおたより、通信を活用し、生徒の活躍の様子を保護者・地域に発信した。 多くの保護者が、「学校は授業参観や行事など、保護者が参加しやすい取り組みを十分設けている」と回答している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 小学生が不安なく中学校へ入学できるためにも、小中学生の交流活動は有効な手段。これからも続けてほしい。 保護者への案内やおたよりが届かないことがある。紙で配る場合もメールでお知らせしてくれるとありがたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 乗り入れ授業、4校異学年交流会を継続し、児童生徒の成長につながる実践を行っていく。 学校生活の様子をHPや学校だより、通信等で保護者や地域に情報をきめ細かに発信していく。 配信メールを活用し、行事案内や通信など、その日のうちに全世帯に確実に届くようにする。
		・学校ホームページの充実を図り、保護者・地域への情報発信を積極的に行う。	A					

【自己評価】 A:十分に達成されている B:概ね達成されている C:あまり達成されていない D:ほとんど達成されていない

【総合評価】 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価

【関係者評価】 A:適切である B:概ね適切である C:あまり適切ではない D:適切とは言えない